

米国経済・金融概況 (2023年9月)

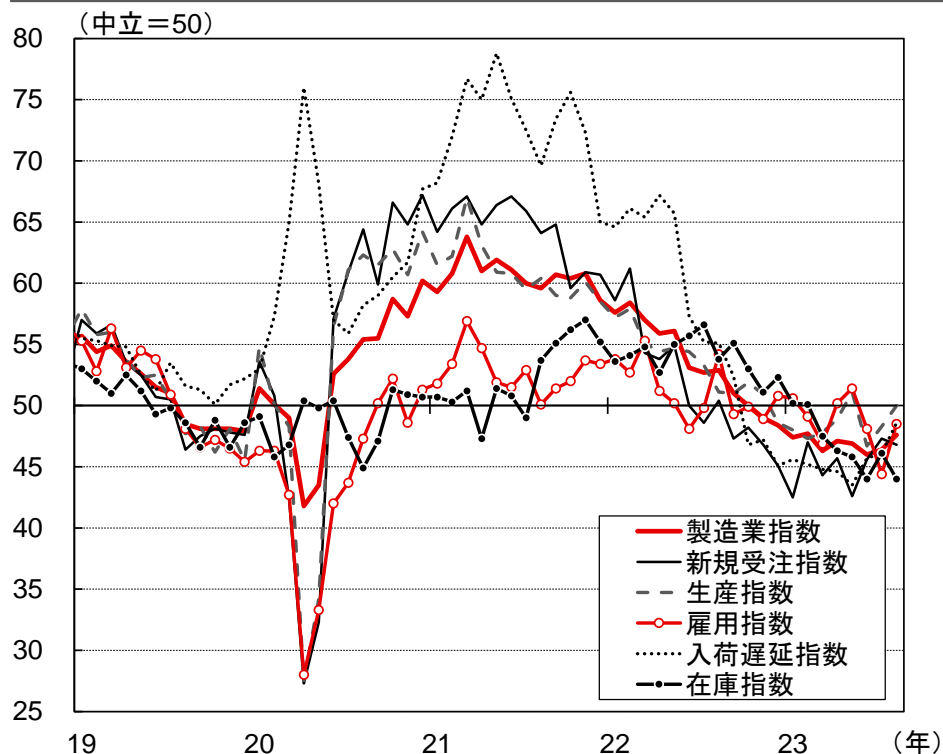
2023年9月18日

経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. 企業活動

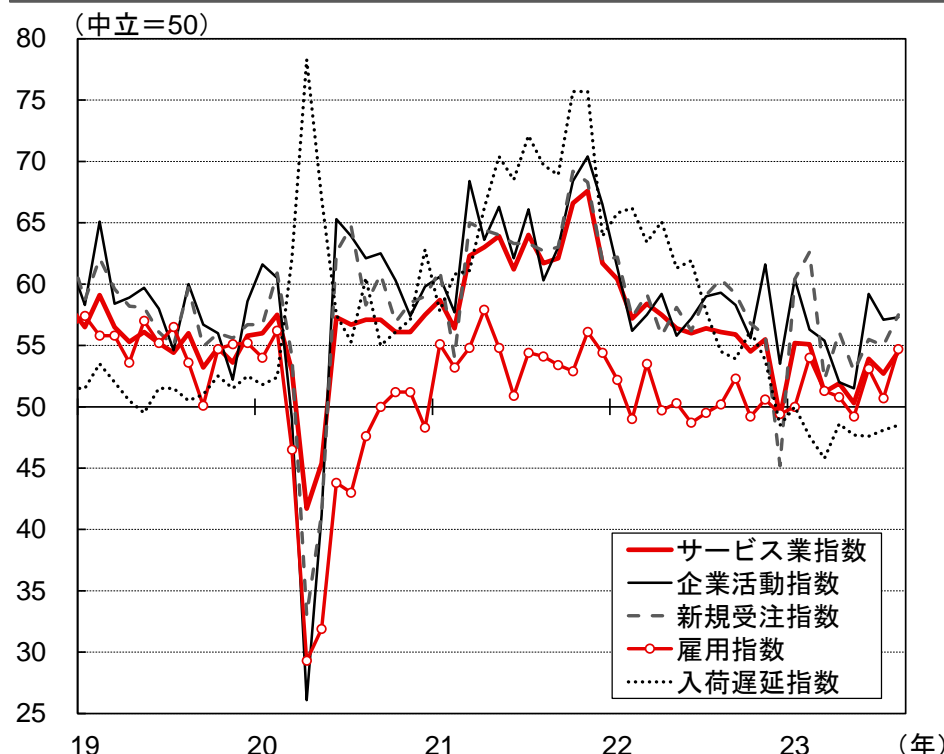
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、8月に47.6(前月比+1.2ポイント)と2ヵ月連続で上昇。指数の構成項目をみると、雇用指数(48.5、同+4.1ポイント)、入荷遅延指数(48.6、同+2.5ポイント)、生産指数(50.0、同+1.7ポイント)が上昇した一方、在庫指数(44.0、同▲2.1ポイント)、新規受注指数(46.8、同▲0.5ポイント)は低下。回答企業からは、需要の軟化に加えてサプライチェーン改善に伴う在庫削減が受注を下押ししているとの指摘がみられた。産業別では全18産業のうち5産業が拡大、13産業が縮小を報告(7月は2産業が拡大、16産業が縮小)。
- 8月のISMサービス業指数(総合指数)は54.5(前月比+1.8ポイント)と2ヵ月ぶりに上昇。指数の構成項目をみると、雇用指数(54.7、同+4.0ポイント)、新規受注指数(57.5、同+2.5ポイント)、入荷遅延指数(48.5、同+0.4ポイント)、企業活動指数(57.3、同+0.2ポイント)がそれぞれ上昇。ISMは、回答企業の多くは業況や経済全般を前向きに評価していると指摘。産業別では全18産業のうち13産業が拡大、5産業が縮小(7月は14産業が拡大、4産業が縮小)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

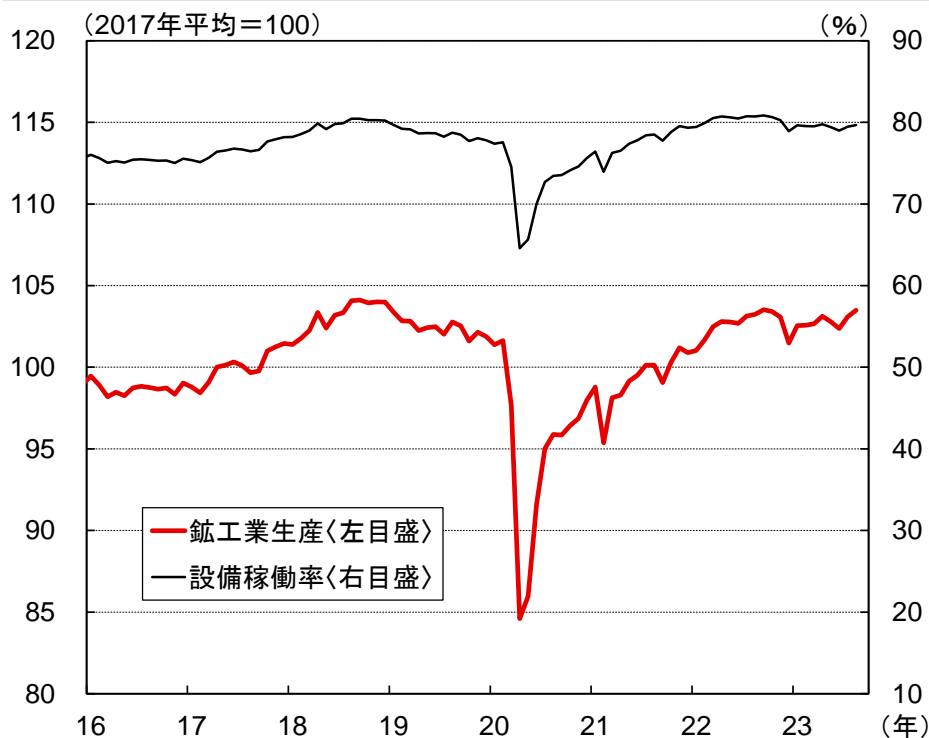


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 生産

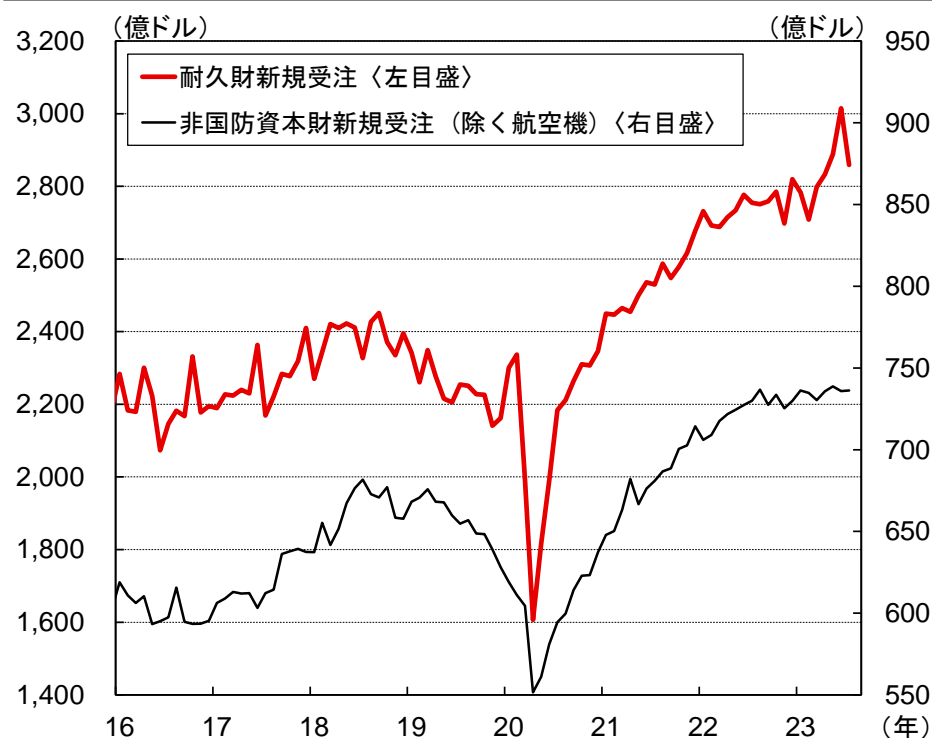
- 8月の鉱工業生産は前月比+0.4%と2カ月連続で増加。産業別にみると、全体の約7割を占める「製造業」は同+0.1%と小幅増加に止まった一方、「鉱業」は原油価格上昇を受けて「石油・ガス採掘」を中心に同+1.4%と増加。「公益事業(電力・ガス)」も同+0.9%と2カ月連続で増加。8月の設備稼働率は79.7%と、前月から0.2%ポイント上昇。先行きについて、9月15日より一部の自動車工場で開始されたUAW(全米自動車労組)のストライキの影響が懸念される(鉱工業生産に占める「自動車・同部品」のウェイトは約5%)。
- 7月の耐久財受注は前月比▲5.2%と5カ月ぶりに減少。内訳をみると、「輸送用機器」(同▲14.3%)が、前月に急増した「民間航空機」の反動減(同▲43.6%)により全体を押し下げた。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+0.1%と2カ月ぶりに小幅増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

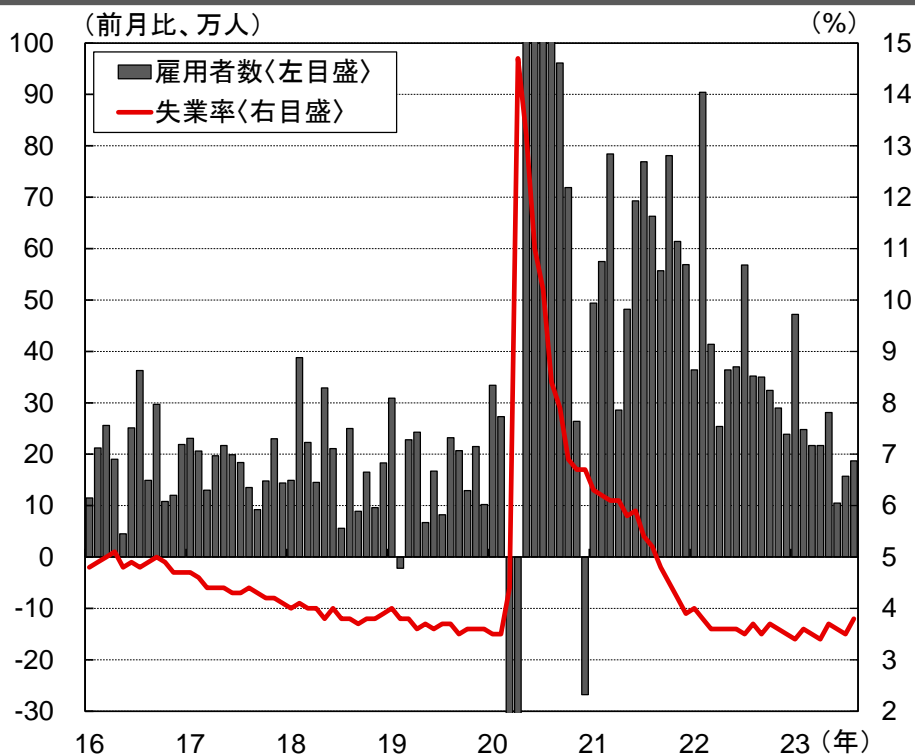


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 雇用

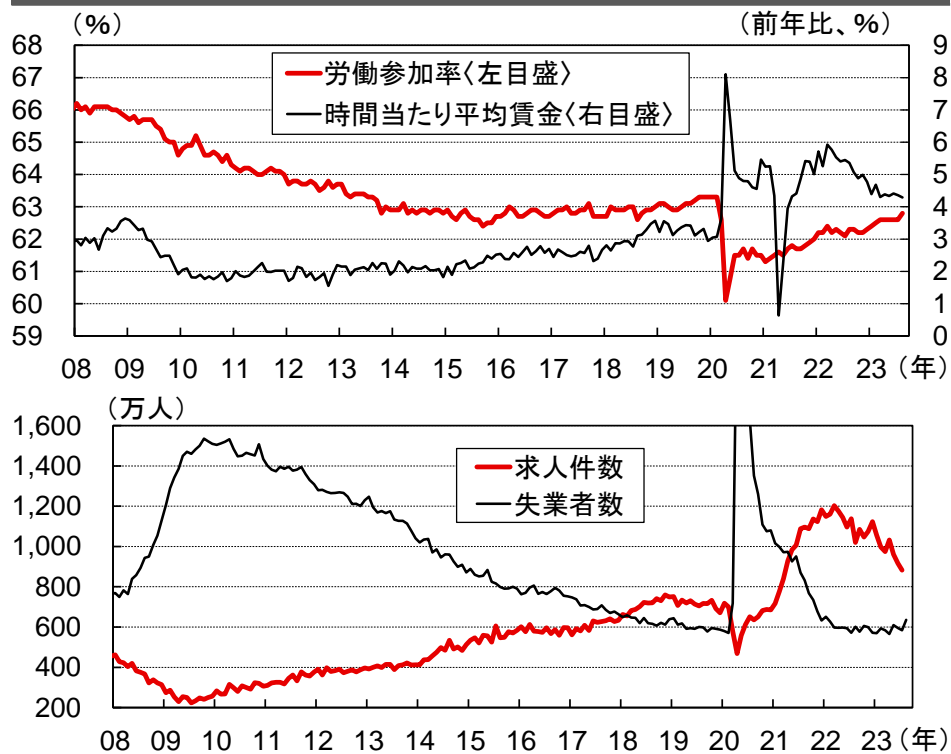
- 8月の非農業部門雇用者数は前月比+18.7万人と市場予想(Bloomberg集計:同+17.0万人)を上回ったものの、6月(同+18.5万人→同+10.5万人)、7月(同18.7万人→同+15.7万人)の増加幅は計▲11.0万人の下方改定。業種別にみると、8月は「医療」(同+7.1万人)、「レジャー・接客」(同+4.0万人)、「建設業」(同+2.2万人)等が増加した一方、「運輸・倉庫」(同▲3.4万人)、「情報通信」(同▲1.5万人)は減少。
- 8月の失業率は3.8%(前月差+0.3%ポイント)と上昇、失業者数は635.5万人(前月比+51.4万人)と増加。労働参加率は62.8%(同+0.2%ポイント)と上昇。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+4.3%(7月:同+4.4%)と伸びが鈍化。
- 7月の求人件数は882.7万件(前月比▲33.8万件)と3ヵ月連続で減少。求人件数は失業者数の約1.5倍と依然として高水準にあるものの、労働需給の逼迫感は緩和しつつある。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

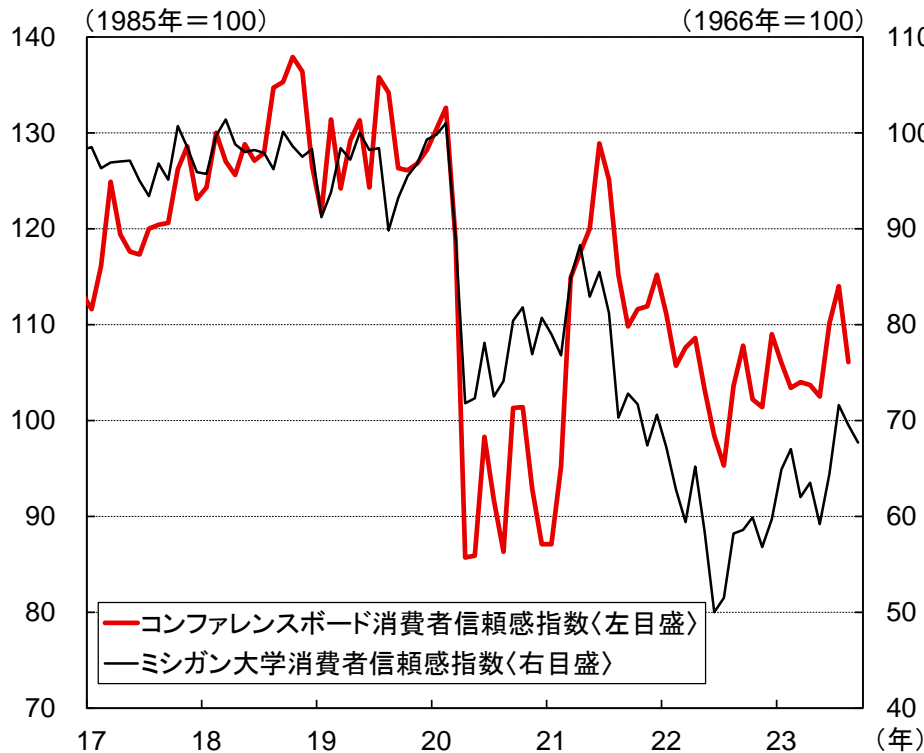


(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 個人消費

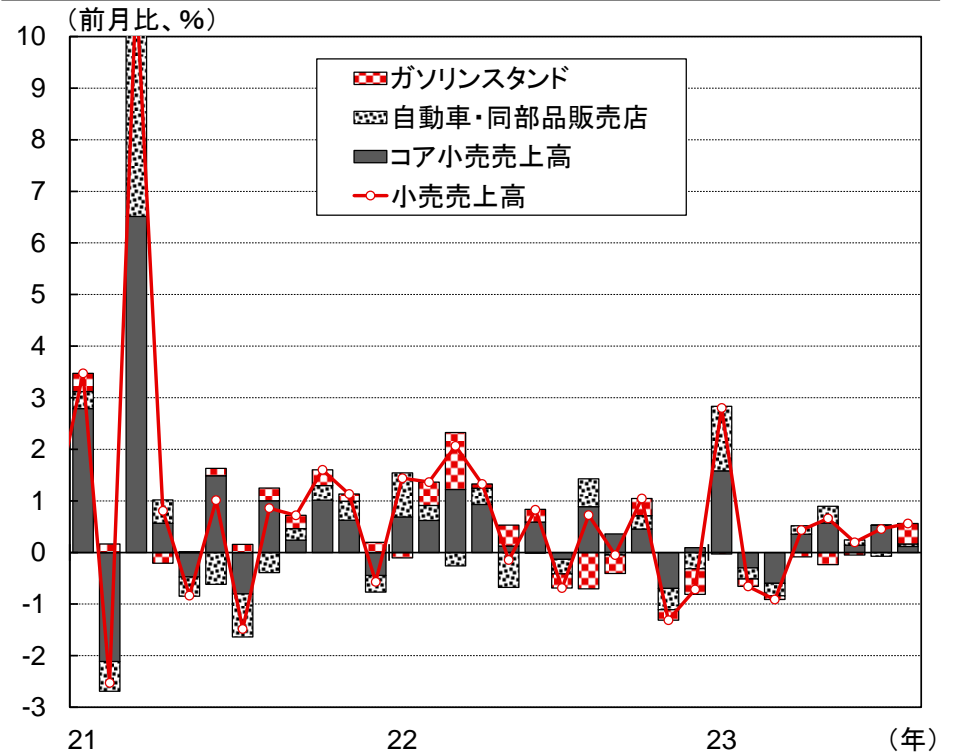
- 8月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は106.1(前月比▲7.9ポイント)と3カ月ぶりに低下。また、9月のミシガン大学消費者信頼感指数は67.7(同▲1.8ポイント)と2カ月連続で低下。うち現状指数は69.8(同▲5.9ポイント)と低下、期待指数は66.3(同+0.8ポイント)と小幅上昇。労働市場の軟化により雇用に対する楽観的な見方が減少している一方、先行きのインフレに対する見方は改善。
- 8月の小売売上高は前月比+0.6%と5カ月連続で増加(7月:同+0.5%、改定値)。業種別にみると、原油価格上昇を受け「ガソリンスタンド」(同+5.2%)が大幅に増加したほか、「衣服販売店」(同+0.9%)、「電機・家電販売店」(同+0.7%)、「食料品・飲料品店」(同+0.4%)、「自動車・部品販売店」(同+0.3%)、「飲食店」(同+0.3%)等が増加。一方、「スポーツ用品・娯楽・楽器・書籍販売店」(同▲1.6%)、「家具販売店」(同▲1.0%)は減少。「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同+0.2%(7月:同+0.7%、改定値)。

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

小売売上高の推移

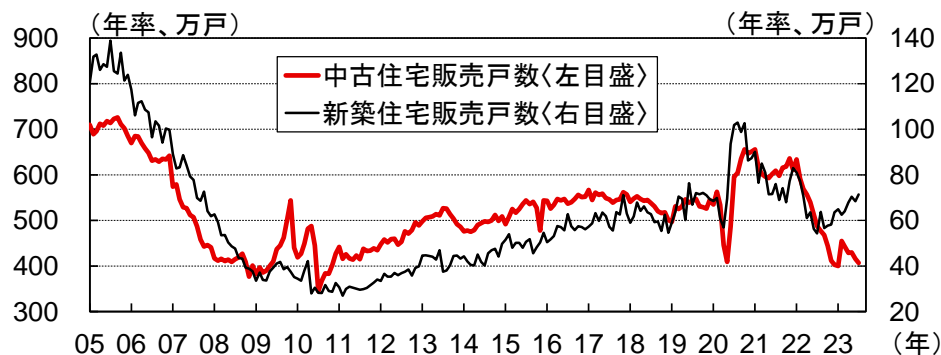
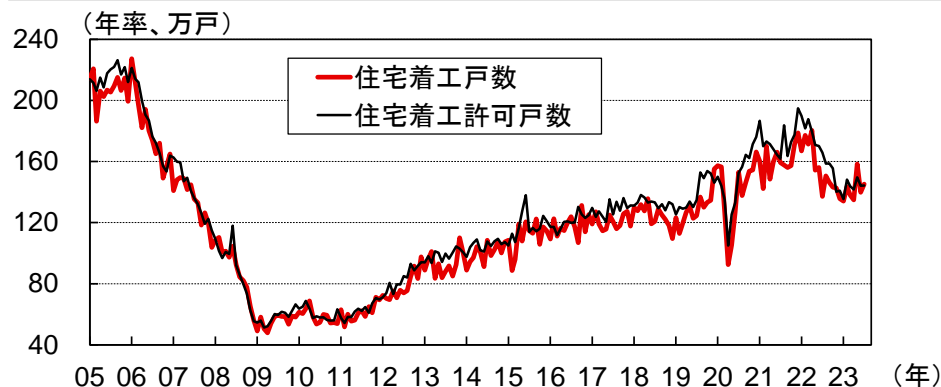


(資料)米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 住宅

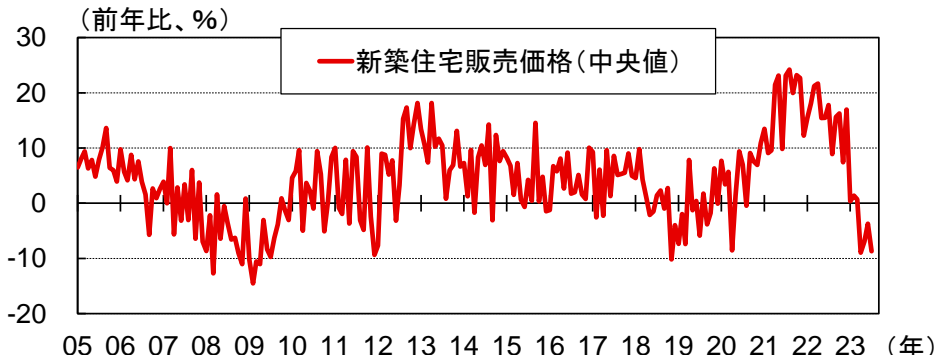
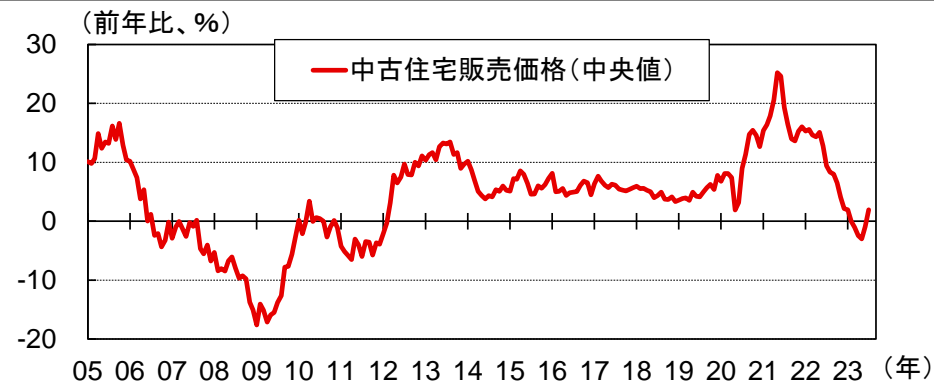
- 7月の住宅着工戸数は前月比+3.9%の年率145.2万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。内訳をみると、一戸建住宅は同+6.7%と2ヵ月ぶりに増加した一方、変動の大きい集合住宅(2世帯以上)は同▲1.7%と2ヵ月連続で減少。先行指標である住宅着工許可戸数は同+0.1%の年率144.3万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに小幅増加。
- 7月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比▲2.2%の年率407万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で減少、新築住宅は同+4.4%の年率71.4万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。新築住宅販売は持ち直しつつあるものの、足元では住宅ローン金利が一段と上昇しており、住宅販売を下押しする公算。
- 7月の住宅販売価格は、中古住宅が406,700ドル(中央値)、前年比+1.9%(6月:同▲0.9%)と6ヵ月ぶりに上昇、新築住宅は436,700ドル(中央値)、同▲8.7%(6月:同▲3.7%)と4ヵ月連続で下落。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 物価

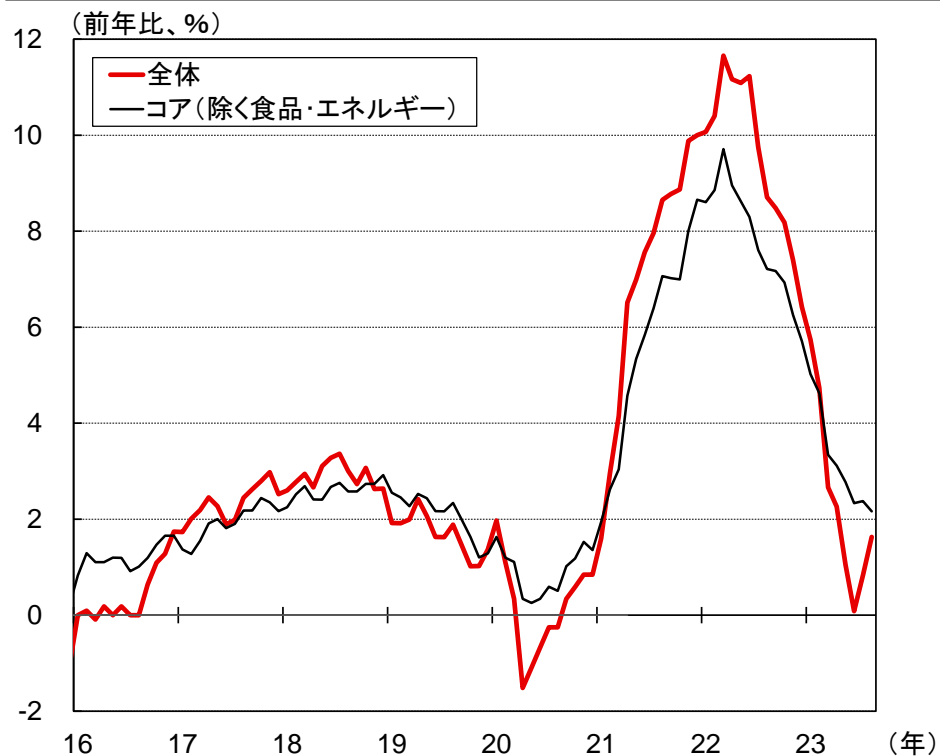
- 8月の消費者物価指数は前年比+3.7%(7月:同+3.2%)と、エネルギー価格上昇を受けて2ヵ月連続で伸びが加速。一方、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+4.3%(7月:同+4.7%)と5ヵ月連続で鈍化。ウェイトの大きい「中古車」(同▲5.6%→同▲6.6%)の下落幅拡大や「住居費」(同+7.7%→同+7.3%)の伸び鈍化がコア指数の鈍化に寄与。
- 8月の生産者物価指数は前年比+1.6%と2ヵ月連続で伸びが加速(7月:同+0.8%)。内訳をみると、「財」は同+0.5%(7月:同▲2.4%)と4ヵ月ぶりに上昇に転じた一方、「サービス」は同+2.2%(7月:同+2.5%)と2ヵ月ぶりに伸びが鈍化。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+2.2%(7月:同+2.4%)と2ヵ月ぶりに伸びが鈍化。

消費者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移

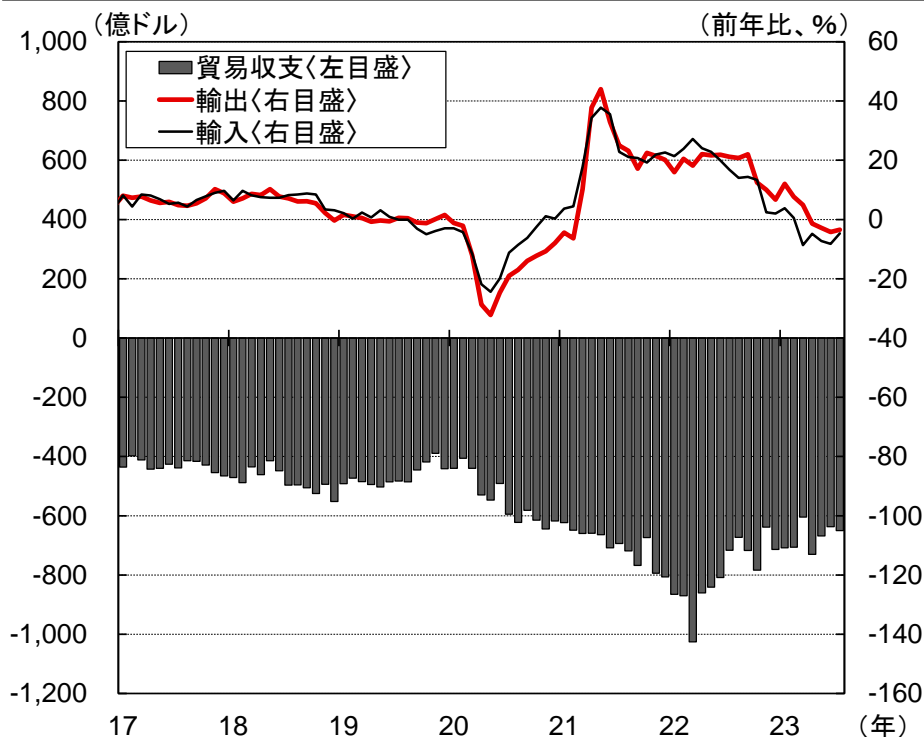


(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 国際収支

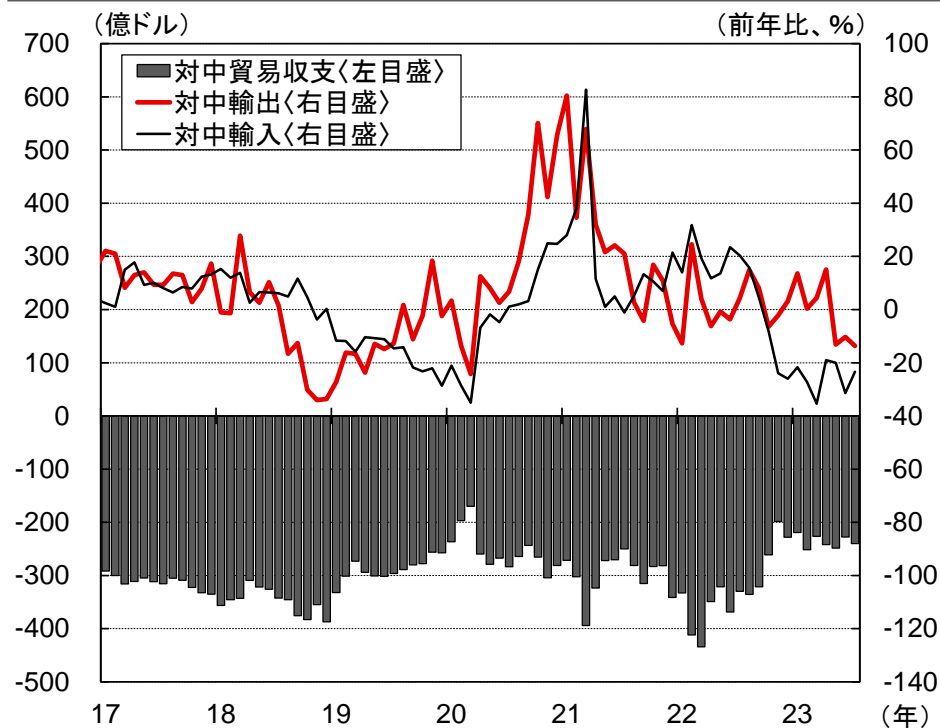
- 7月の貿易収支(財・サービス)は650億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+2.0%(同+13億ドル)と拡大。輸出は同+1.6%と4ヵ月ぶりに増加、輸入は同+1.7%と3ヵ月ぶりに増加。前年比で見ると輸出は▲3.5%と4ヵ月連続で減少、輸入は▲4.7%と5ヵ月連続で減少。
- 財の貿易収支を国・地域別にみると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める中国との貿易赤字は7月に240億ドルとなり、赤字幅は前月比+5.4%(同+12億ドル)と拡大。対中輸出(財)は同+3.5%と4ヵ月ぶりに増加、対中輸入(財)は同+4.8%と3ヵ月ぶりに増加。前年比で見ると、対中輸出(財)は▲13.7%と3ヵ月連続で減少、対中輸入(財)は▲23.4%と10ヵ月連続で減少。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注)国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移

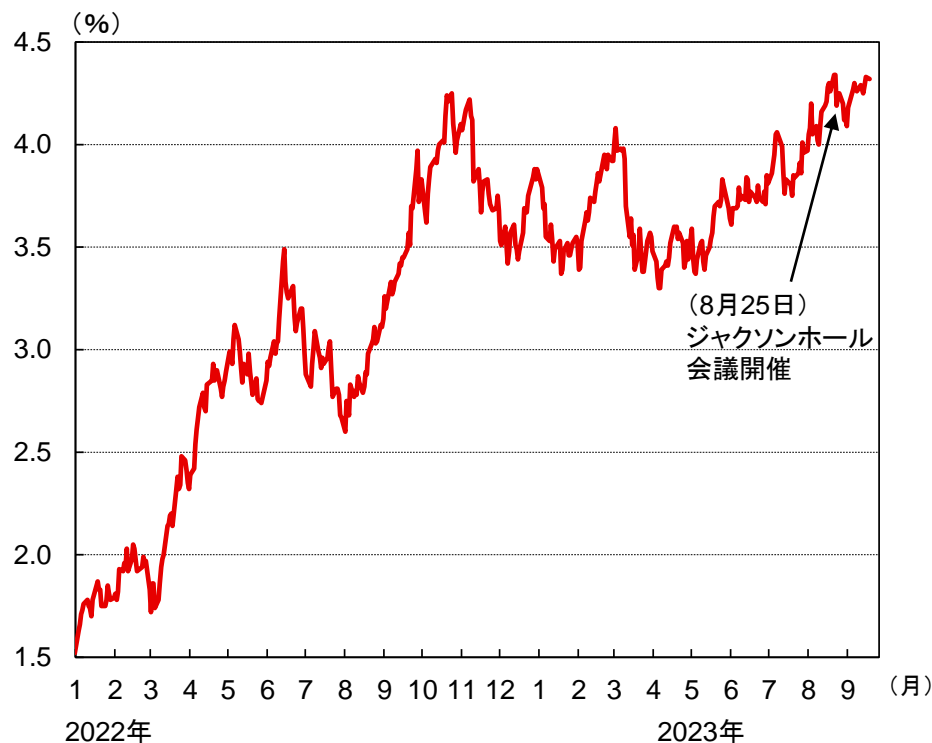


(注)通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、ジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長の講演を受けて、追加利上げへの警戒感が和らいだことから低下。9月以降は、原油価格上昇によるインフレ再加速への懸念等により、金利が高止まりする可能性が再び意識され上昇基調で推移。
- ダウ平均株価は、米国債利回り上昇の一服を受けて8月下旬に下げ止まったものの、その後は米国債利回りが再び上昇基調となったことから、株価は軟調に推移。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : 角田 ともみ e-mail : tkakuta@us.mufg.jp